



Weekly Market Report

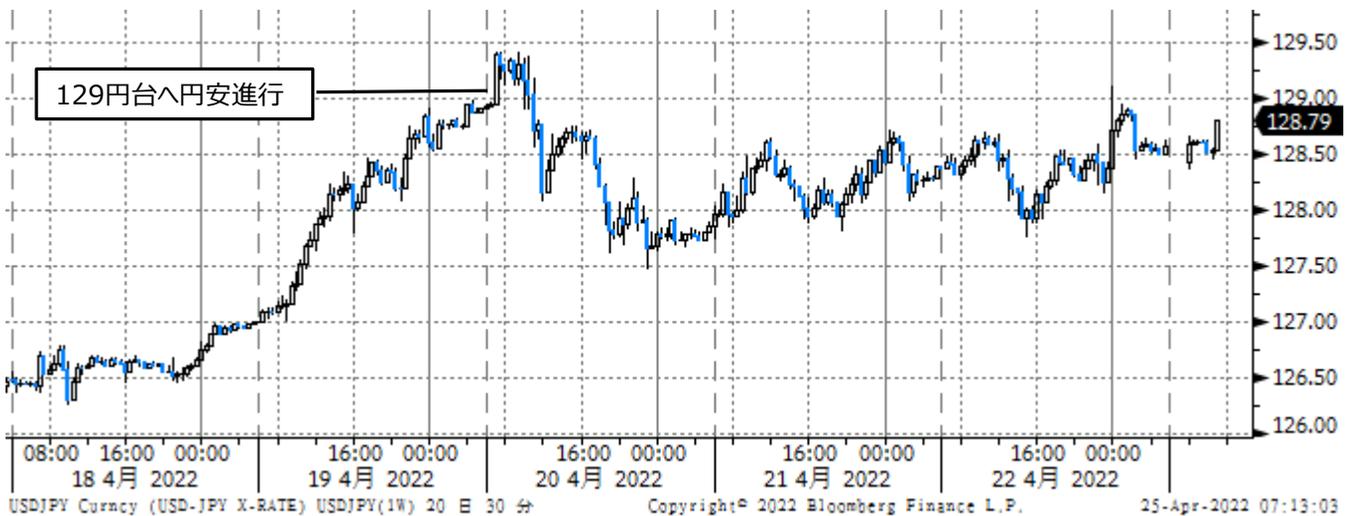
Apr 25, 2022

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

本邦連休前、FOMCに備えてポジション調整色が強まりそう。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は129円台まで上昇。円買い介入の思惑からヘッドラインに上下するも基調に変化なし。週初126円台半ばでスタート、米当局者から「0.75%の利上げも排除しない」等発言あり127円台に乗せた。本邦当局者からは連日円安牽制あるもむしろ押し目買いの好機となりドル円の上昇は続き、米30年債利回りが3%台を乗せるなかドル円は128円台後半へ。水曜日は今までの急激な円安の反動で129.40円まで上昇していたドル円は仲値を終えとポジション調整が強まり128円割れ。米金利も急低下すると127円台半ばまで下落。その後はパウエル議長の発言内容がタカ派寄りであった為128円台半ばまで回復。週末は、黒田日銀総裁の緩和継続スタンスから円売りに拍車がかかり129円台に乗せる場面あるも128円台半ばで越週。今週は本邦勢は連休前週初はドル買いか。(市場商品部/CDG)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/25(月)	(独) IFO企業景況感指数	88.1
4/26(火)	(米) 新築住宅販売件数	77.4万件
4/27(水)	(豪) CPI(前期比)	1.7%
4/28(木)	(日) BOJ	-
4/28(木)	(米) GDP(前期比)	1.0%

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

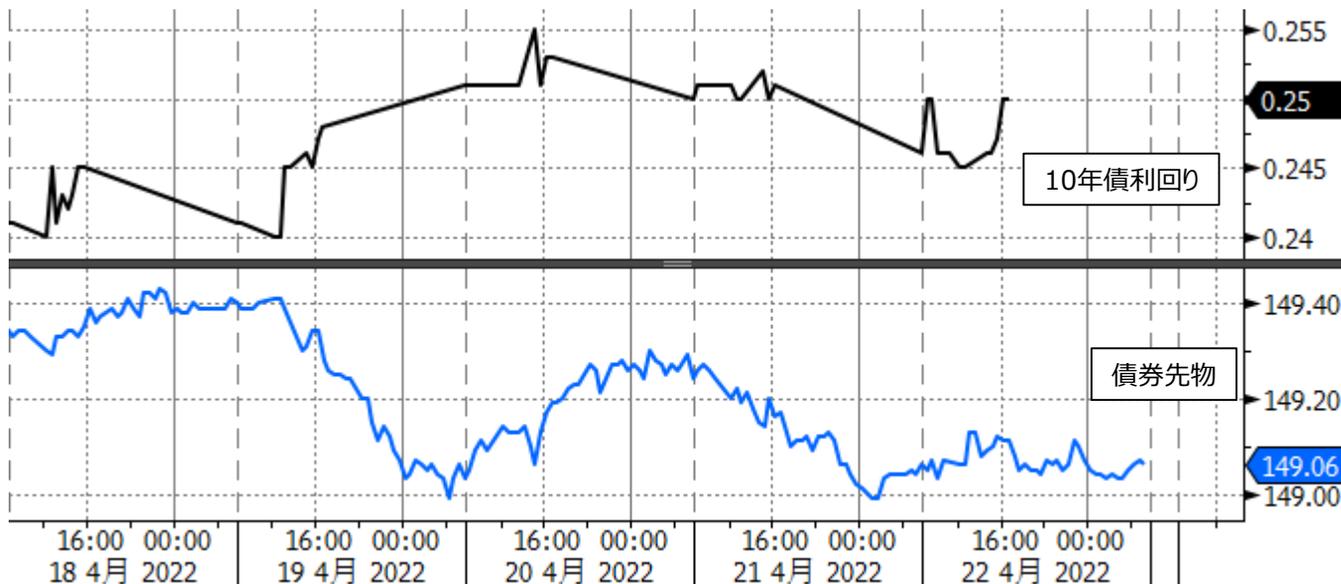
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
三原大希	128.20 - 133.30	円高材料に乏しい中、心理的節目130円を超えると予想。日銀金融政策決定会合での黒田総裁の発言に注目。
嵯峨大輝	128.00 - 132.00	FOMC利上げ観測から円安ドル高のトレンドは変わらない一方で、連休前の調整や黒田総裁の発言には注意が必要。

2. 円金利相場概況

本邦連休前の日銀金融政策決定会合に注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright © 2022 Bloomberg Finance L.P. 25-Apr-2022 07:10:53

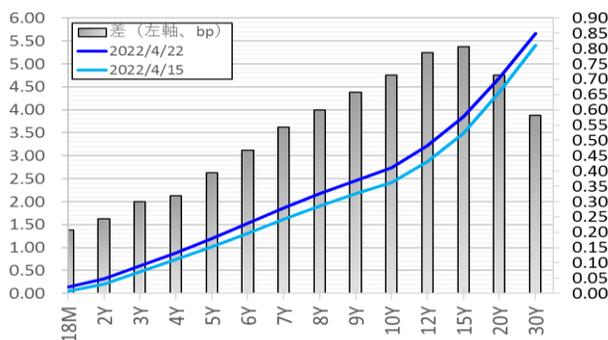
(出所) Bloomberg

コメント

先週の10年債利回りは0.240%～0.255%のレンジで推移した。週初は欧米がイースター休暇の中、19日の流動性供給入札が発表され、結果は強かったものの、円金利への影響は限定的に留まった。週中はブラド総裁が0.75%の利上げも排除しないと表明したことで、米長期金利は上昇。これにつられる形で円金利も上昇し、0.255%まで上昇した。これに対して日銀は連続指値オペを実施し、円長期金利は0.250%近辺まで戻る展開となった。週後半は米20年債の入札が好調に終わったことで円金利もやや低下基調で推移するも、週末の東京時間は米長期上昇につられる形で再び0.250%付近まで上昇して越週。今週4/28日に日銀金融政策決定会合が予定されているが、先週黒田総裁が金融緩和継続姿勢を改めて示しており、上値は抑えられる展開が続くと予想。（市場営業部/三原）

金利スワップ変化（1週間）

(%)



10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
正村光太郎	0.22% - 0.25%	引き続き指値オペにより上限0.25%近辺を推移すると思われる。超長期ゾーンへ作用する日銀臨時オペに注意したい。
伊豆浦有里恵	0.22% - 0.25%	米長期金利を睨みながらも、日銀金融政策決定会合の結果や日銀総裁の会見を確認するまでは膠着状態継続か。

3. 今週のトピックス ポンド相場アップデート

欧州各国で高インフレが続く中、将来的には景気鈍化のリスクに注意。

BOE金融政策

イングランド中央銀行(BOE)は3月16日、金融政策委員会(MPC)を開催し、17日に金融政策の方針を公表。投票権を持つメンバー9人中8人の賛成多数で政策金利を0.5%から0.75%に引き上げ、昨年12月、今年2月に続く、3会合連続の利上げを行った。ロシアによるウクライナ侵攻を受け、エネルギー、商品価格は上昇。但し、世界的なサプライチェーンの混乱も重なり、英国を含むエネルギー輸入国の経済が鈍化する可能性も指摘され追加利上げについてはトーンダウンした。一方、唯一利上げに反対したカンリフ副総裁は「ウクライナ情勢による影響は2022年後半から2023年初にかけて、予想したよりも急激な景気減速が起こり、インフレが長期的にオーバーシュートする可能性は低い」と言及し、政策金利の据え置きを支持した。

英国経済動向

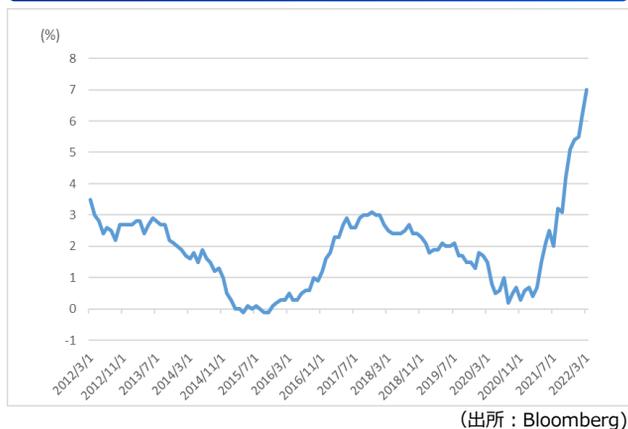
英国立統計局(ONS)が発表した4月13日の3月の英消費者物価指数(CPI)は、前年同月比で7.0%(伸び率は2月の6.2%から0.8%上昇)に上昇【図1】。物価上昇率は6か月続けて拡大し、2021年9月の3.1%から半年近くで2倍強になっている。エネルギー価格の上昇だけでなく、食料品等あらゆる品目が値上げ。労働市場では3月の失業率、就業者数が改善した一方で、実質賃金が物価の上昇ペースに追いつかない状況が発生し、政府の物価高対応に抗議するデモが行われている。インフレ基調が続いている事から、欧州主要国の10年債利回りも上昇基調となっていることが確認出来る【図2】。

今後のポンド相場展開

ポンドは4月に入り対円では160円台の高値圏を維持しているが、対ドルでは1.3ドル台と低調に推移。対円では日英中銀の金融政策スタンスの違いからポンド買いが進む一方、対ドルではウクライナ情勢による先行き不透明感が高まる中、欧州通貨が全面的に下落したこと、FRBによる利上げペースが加速するとの思惑が広がったことからドル買い圧力が強まったと思われる【図3】。

BOEは4月の英消費者物価指数(CPI)が8%になる見通しを発表。物価高騰の危機が叫ばれる中で、次回の政策決定会合においても利上げを実施し、政策金利が1%に引き上げられる公算が高い。さらにその後の年内残り4会合において100bpの追加利上げを市場で見込まれているが、英物価指数は高止まりしており、実質金利がマイナスとなっている事から、対円に対してのポンド高は一巡すると予想。対ドルについては、引き続き低調な展開が予想される。各中銀の中で先行して利上げに踏み切ったがBOEだが、今後の追加利上げや物価動向には今後も注視していきたい。(市場営業部 山下)

【図1】 消費者物価指数 (CPI)



【図2】 欧州主要国10年債利回り



【図3】 ポンド相場 (対ドル、対円)



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会